

の整形外科診療を浦添総合病院とロクト整形外科の医師が交代で行っています。石垣のかりゆし病院からも応援依頼があり平成24年から週1日外来を行っています。

今後も離島を含めた病院、クリニックとの連携を密にとりながら、常に患者第一に考え、働くスタッフとは固いチームワークでさらなるレベルアップを目指したいと考えています。

近況報告

東京都立大塚病院新生児科 部長 増 永 健

琉球大学医学科同窓会の皆様、大変ご無沙汰しております。今回、同期の屋良先生より南風に原稿を載せていただけるとのご連絡をいただき、近況報告させていただきます。

私は大学を卒業した後、東京の日本大学板橋病院小児科に入局しました。琉球大学からは現在西早稲田で開業しておられる1期生の本庄保至先生が既に入局しておられ、学生時代に見学を訪れた際にいろいろお話を伺い入局を決めました。その後、大学病院やいくつかの関連病院に勤務するうち、小児科の中でも新生児医療にもっともやりがいを感じ、サブスペシャリティーとして専攻しました。現在勤務する東京都立大塚病院新生児科には、平成11年から勤務しています。

ここで私の仕事を少し紹介させていただきます。当院は500床の総合病院ですが、周産期医療を重点医療の一つとしており総合周産期母子医療センターに指定されています。NICU（新生児集中治療室）15床、GCU（中等症回復期病室）30床を持つ、比較的大規模な新生児病棟です。切迫早産や前期破水などハイリスク母体を受け入れ、それらの母体から出生する超低出生体重児等の未熟な児、当院や近隣産科施設で出生したハイリスク新生児などの治療を行っています。出生体重200g台の大変小さな児から、体重は大きくても様々な疾患や先天奇形を持つ児など、様々な病的新生児が入院します。少子化の時代ではありますが、高齢出産の増加などによりハイリスク新生児は減っていません。新生児医療の醍醐味は、言葉を話せない小さな新生児の病状を、診察所見や血液検査、画像検査などで正しく把握し適切に治療を行うことで、その治療効果がはっきりとわかることです。勿論うまくいくことばかりではありませんが、これらの子供たちが元気に退院できることを最大の目標に、日々診療にあたっています。同僚は現在10名いますが、先輩や同期入局者の多くが開業し、いつの間にか自分がこの部署の責任者になってしまいました。雑用に追われながらも少しずつですが臨床研究にも取り組んでいます。当院小児科には琉球大学16期生の千賀達子先生も医長として勤務されています。小児医療・新生児医療に興味をお持ちの先生方は、見学大歓迎ですので是非ご一報ください。

私生活では琉球大学保健学科卒の家内と卒後3年目に結婚し、お陰様で2男、2女に恵まれました。

子供も就職や大学進学でだんだんと親の元から離れつつあり、やや寂しさを感じています。学生時代はバドミントン部に所属し、多くの先輩や同級生、後輩たちと知り合えました。きれいな沖縄の自然と共に沖縄でのすばらしい思い出です。なかなか沖縄には帰れませんが、久しぶりに皆さんにお会いしたいです。

同窓の先生方のご活躍を南風で拝見し嬉しく思います。自分も少しずつですが前に進んでいきたいと思しますので、今後ともよろしく願いいたします。

『薬嫌い』

浦添総合病院 麻酔科 島 袋 勉

「薬飲まないといけないですね。」

2014年2月、院内の検診で、腎機能、肝機能、尿酸でひっかかり、要精密検査の指示を受けた麻酔科医の私が、薬にもすがる思い（大袈裟ですねえ）で、同期の佐久田朝功先生のさくだ内科クリニックの診察室にて、言い渡されたのが、上述の言葉であった。

「ええっ、いやです。」思わず、口走ってしまった私の脳裏をこれまでの人生が走馬灯のように駆け巡った。思えば、物心ついた時から、私は、薬嫌いであった。それは、何故か。うまくごっくんできないのである。周りの人々がいとも簡単に薬を飲んでいくのをしり目に、一回に一粒づつ、意を決する覚悟がついてから飲み込むのである。成人となっても、苦手意識は続いており、いっぺんに二粒以上の錠剤を飲むことがいまだにできない。

麻酔科医として、医療界に身を置くようになって、潜在意識下に潜むこの薬嫌いの思いが、医療スタイルにも影響を及ぼしているのではなかろうか。多種多様な薬剤を日々、使用する立場の者として、薬剤の効能、効果については、当然認識しているが、必要最小限度の使用量にとどめたいという思いが強いように思われるのだ。

おっと、話が脇道に逸れてしまった。とにかく、まずは、この危機的状況を打開しなくてはならない。「ちょっと、待ってもらえないですか。ひと月、そう、ひと月の猶予をください。来月の検査結果が、同様であれば、その時はあきらめて指示に従います。」さすがに、同期のよしみである。快く了解してもらえたのだ。

人間やろうと思えばできるものである。今までも、多種類のダイエット法に挑戦するも、完遂できなかった私が、「薬飲みたくない」という強い衝動に突き動かされ、カロリー制限と、適度な運動の習慣化に成功してしまったのである。

晴れて、翌月のさくだ診察室にて、「腎臓病の場合は、いかに悪化する速度を遅くするかが、治療の原則だけど、値がよくなることもあるんだなということがわかったよ。」と、最大級の褒め言葉をいただけたのである。以来、月に一回、モチベーション維持のために、通わせていただいている。この場を借りて感謝したい。「ともあつ、私のやる気に火をつけてくれてありがとう。」